



軽便鉄道の映像は後樂園駅



画像下部に見える丸いものがターンテーブル

アメリカ進駐軍の岡山司令官ホイットニー少佐が、1947年から48年、昭和22年から23年にかけて撮影した映像の中で、小型の機関車が登場する映像の撮影場所が、岡山デジタルミュージアムの協力で明らかになりました。

ホイットニー少佐が撮影した鉄道はいくつもありますが、明らかに軽便だと判る物はワンシーンしかありません。当時岡山県内には西大寺、三幡、吉備、井笠、そして下津井の五つの軽便鉄道がありました。センターではフィルムに映しこまれた情報を元に、少佐が撮影した鉄道がどれなのかを、かつての沿線を歩いてみるなど、機会があるごとに調べていました。

そうこうするうち、今月初めに行われた岡山市デジタルミュージアムの学芸員との情報交換の中で、映像が西大寺軽便鉄道後樂園駅付近ではないかという提案がありました。根拠となったのはフィルムにわずかに写っているコンクリート製のターンテーブルです。この装置は機関車を180度方向転換させるためのもので、普通は鉄道の両終点にしかありません。この条件で各鉄道の終点駅付近から見える山の形を調べ、撮影されていたのが西大寺軽便の後樂園駅だろうということになりました。西大寺軽便とめぼしが付けば調べも進み、写っている機関車がドイツ製のコッヘル4号機であることも分かりました。

記録メディアの歴史

②「8ミリフィルム」



1930年当時、動画用のフィルムには普通映画用の35ミリ、17.5ミリ、16ミリ、それに小型映画用の9.5ミリという4つの規格がありました。アマチュアユーザーが増える中、コダックでは安い価格のフィルムを供給するため、1932年に、シネコダック8という方式のカメラを発売しました。このカメラは、カセットテープレコーダーのように、16ミリフィルムの片側に映像を焼付け、その部分の撮影が終わるとフィルムのスプールを上下入れ替えて、今度は残っている側に映像を焼き付けるというものです。撮影されたフィルムは現像後真ん中から切ってつなぎ合わせ、1本の8ミリ映画にします。

この方式は「ダブルエイト」と呼ばれ、30年以上続きましたが、スプールを入れ替えるのに手間取ったり上下をつなぎ間違えたりとトラブルが多く、しかも16ミリフィルム流用のなごりでフィルムを送る穴（パーフォレーション）が大きく、9.5ミリフィルムに比べて画像に使える領域が狭いのも欠点でした。

1964年、コダック社はこの欠点を克服するためにパーフォレーションの小さい「シングルエイト」を発表。翌年フジフィルムが、専用マガジントypesの小型カメラを発売して8ミリフィルムは黄金時代を迎えます。

『マガジン、ポン。フジカシングルエイト』という扇千景のCMは熟年世代なら誰でも知っています。



その後学芸員の方のご協力でも、当時を知る人からの裏付けも行い、撮影場所が後樂園駅周辺に間違いないことがはっきりしました。

それにしても、かれこれ1年間、あそこかここかと探し回っていた撮影場所が、今は面影すらないライブラリーセンターの近所だったとは驚きです。

同録テープはありませんか

山陽放送のラジオ・テレビの同録や記録を正式に保存し始めたのは、センターが出来た3年前です。このためそれ以前の番組の多くは記録されないまま失われています。

今までも各方面の方のご協力で番組アーカイブ化を進めてきましたが、ライブラリーセンターの更なる充実のため、今一度ご家庭の押入れなどの探索を願い申し上げます。